令和元年度機能強化経費（国際学会発表等旅費）報告

24th Annual Congress of the European College of Sport Science（ECSS PRAGUE 2019）における研究発表

佐藤伸之*

はじめに

令和元年度機能強化経費（国際学会発表等旅費）の助成により，平成30年７月２日から平成30年７月７日までの日程で，チェコのプラハにて開催された24th Annual Congress of the European College of Sport Science（第24回ヨーロッパスポーツ科学学会：以下，ECSS と略す）に参加し，我々の研究成果の一部を発表する機会をいただいた．本稿では，学会大会の様子および筆者の発表内容について報告する．

ECSS 2018の会場となったプラハ会議センター

ECSS について

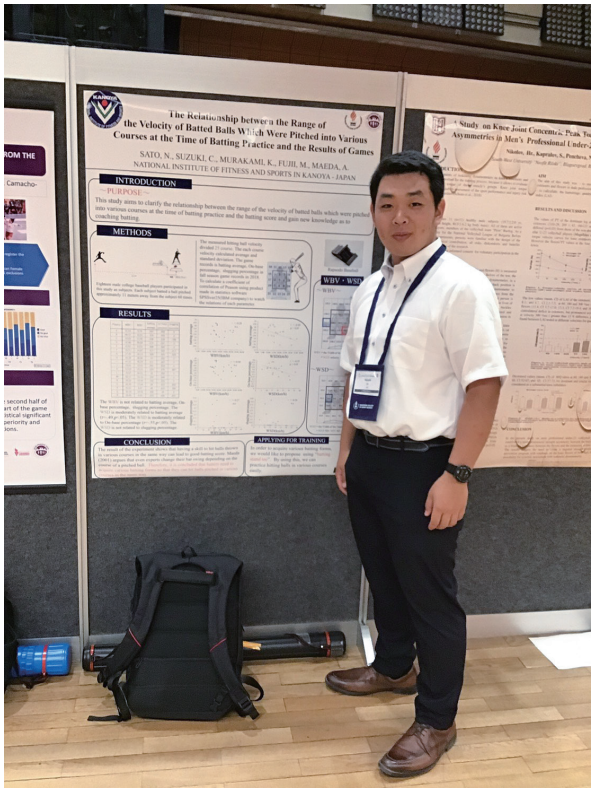
当学会は，1995年にヨーロッパにおけるスポーツ科学のレベル向上およびスポーツに関する科学的な知識の普及とともに研究者間の交流を目的とした国際組織である．現在では約2000名の会員数を擁し，年に一回 Annual Congress を開催している．ヨーロッパを拠点とする学会であるにも関わらず，アメリカ，アジア，オセアニアなど世界中から，スポーツ科学領域の研究者が集まり，研究成果の発表および討論が盛んに行なわれている．今回参加した第23回 ECSS 学会においてもスポーツ科学を研究領域とする研究者や学生をはじめ，運動指導および実践者等の参加者で非常に盛況であった．学会大会中は，一般発表だけでなく「SPORTEX 2019」という協賛企業によるフロアーでの展示や実践・体験コーナー等のプログラムが用意されており，企業と研究者による興味深いディスカッションが会場のいたる場所で行われていた．

研究発表について

一般発表には，「Oral & Invited Presentation」，「Mini-Oral presentation」，「Conventional Print Poster Presentation」，「e-Poster Screens」に分かれており，私の発表はその内容は，「Conventional Print Poster Presentation」（ポスター前での３分間の発表と２分間の質疑応答）であった．今回発表した研究のテーマは，「The Relationship between the Range of the Velocity of Batted Balls Which Were Pitched into Various Courses at the Time of Batting Practice and the Results of Games」であり，本研究では打撃練習時における各コースの打球速度の幅と試合成績の関係を明らかにすることを目的としたものであった．発表後の質疑応答にて，「野球ではなく，野球と似た競技特性を持つソフトボールでは同じ結果がでるか」という質問を受け，研究している競技だけでなく他競技にも目を向けることが大切であることを再確認しました．ポスター前での口頭発表があるということもあり，自身の研究成果を英語で伝えられるか不安であったが，当日の

* 鹿屋体育大学大学院体育学研究科修士課程２年

チェアマンに助けていただき，研究だけでなく英語力の未熟さを再確認することができた．この度の経験は，今後の研究活動につなげていきたいと感じた．



発表後のポスター前の様子

おわりに

今回の発表を通して，他者の研究発表から新たな考え方を学ぶことができ，私にとって非常に良い刺激となった．また，本学会中に多くの研究者の方とディスカッションすることができ，モチベーションの向上にもなった．この度の経験は，今後の修士論文の作成や研究活動にあたり，有意義なものであったと感じた．また，今後も国際学会にて発表する可能性があることを見越して語学力の方も磨いていきたい．最後に，本学会大会への参加・発表を行なうにあたり，ご理解と多大なるご支援をいただきました，前田明教授および共同研究者の皆様，本学職員の皆様に感謝の意を表します．